

一茶ゆかりの里四季の俳句会（平成三十年四月～六月分）

選者 志やくなげ 荒井智雄 先生

特選天 啓蟄やチエーンソーの音山揺する 群馬県 竹淵千恵子

春先の躍動感が表現されている

特選地 塗る畦の泥盗みゆくつばくらめ 群馬県 篠原庄治

人の営みと燕の営みの係りの深さと親しみの句

特選人 離れ家に一茶居ること夏蝶来 長野市 近藤藍

夏の静寂の一時一茶翁を偲びながら作句をしている様子が思われる句

入選 飛花落花気の合いそうな鯉の口 群馬県 滝沢照香

入選 高山や袂抜けたる青嵐 長野市 宮原和子

入選 一茶句碑踊り手を待つ神輿草 長野市 小沼孝子

入選 指先で蟻の生死を決しけり 宮城県 福田良光

入選 少しづつすべて大きめ入学す 長野市 浦野スミ子

入選 鯉の列パシユートの如花万朶 群馬県 仙田美名代

入選 浅間山靄の帳の開かず梅雨 群馬県 田村洋子